

授業科目	がん看護学					実務家教員担当科目	○						
単位	1	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期						
担当教員	中原 智美、原 順子、樋口 由貴子												
授業概要	<p>医療現場におけるがん看護、緩和ケア、終末期看護、看取りなどの看護師経験をふまえて、実務家教員が実際の症例等を示しながら以下について解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の特徴、具体的な治療方法や治療の場をふまえた看護のありかた、チーム医療など、がんサバイバーの療養を支える看護援助に必要なアセスメントの視点や援助方法について解説する。 ・終末期にある患者の特徴や、緩和ケア・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助について解説する。 ・小児における緩和ケア、終末期医療および看護について解説する。 												
授業形態	対面授業			授業方法	ディスカッション, Classroomの活用								
学生が達成すべき行動目標													
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者の特徴や、治療による影響をふまえた看護援助について述べることができる。 2. がんサバイバーの苦痛を理解し、症状マネジメントについて述べることができる。 3. がん治療の場を考慮した継続看護・チーム医療のありかたについて述べることができる。 4. 終末期にある患者とその家族のQOLの維持・向上を支える看護援助について述べることができる。 5. 倫理的課題をあげ、それに対する看護師の役割を述べることができる。 6. 小児の緩和・終末期ケアについて述べることができる。 												
理想的レベル	目標1～6の内容を総合的に理解し、病状の経過や治療によって起こりうる健康上の問題とそれに対する援助方法を適切に挙げることができる。												
評価方法・評価割合													
評価方法			評価割合（数値）			備考							
試験			65%										
小テスト			0										
レポート			30%										
発表（口頭、プレゼンテーション）			0										
レポート外の提出物			0										
その他			5%			GWへの参加度、提出状況などの態度面							
カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング													
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU21406J		
学習課題（予習・復習）										1回の目安時間（時間）			
復習：本日の授業内容の振り返り 予習：次回授業内容について配付資料、テキスト、参考資料に目を通しておく ※第9回のディスカッションを行うにあたり、別途事前・事後課題を提示する										1			
授業計画													
第1回	テーマ：緩和・がん看護学のガイダンスおよびがん看護学の概念 ・がん医療の基礎知識 ・がん医療が直面する課題と施策							(中原)					

第2回	<p>テーマ：がん治療と看護 [薬物療法①]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法の種類と代表的な有害事象 ・薬物療法の治療計画（レジメン） (中原)
第3回	<p>テーマ：がん治療と看護 [薬物療法②]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法を受ける患者の看護 　　薬物療法前の準備 　　副作用症状のマネジメント ・抗がん薬の曝露対策 (中原)
第4回	<p>テーマ：がん治療と看護 [薬物療法③]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年のがん薬物療法の発展 　　がん免疫療法、がんゲノム医療など (原)
第5回	<p>テーマ：がん治療と看護 [放射線療法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線療法を受ける患者の看護 (中原)
第6回	<p>テーマ：がん治療と看護 [造血幹細胞移植①]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液・造血器疾患の理解 ・血液・造血器疾患をもつ患者の看護 (中原)
第7回	<p>テーマ：がん治療と看護 [造血幹細胞移植②]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造血幹細胞移植を受ける患者の看護 (中原)
第8回	<p>テーマ：がんの治療の場と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来における療養支援と医療連携 ・がん患者の社会復帰、がんサバイバー ・地域で生活する患者・家族を支えるシステム <p>(中原)</p>
第9回	<p>テーマ：がんとともに生きる患者の理解や看護の視点を深める（グループディスカッション）</p> <p>第1～8回講義で学んだ知識を根拠にしながら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん体験者の声（悩みや負担）を知り、看護としてできることを具体的に考える ・必要な連携や社会資源の活用について具体策を考える <p>(原・中原)</p>
第10回	<p>テーマ：がんサバイバーへの緩和ケア①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状マネジメント 　　消化器症状、しびれ、皮膚症状、倦怠感、精神症状 <p>(原)</p>
第11回	<p>テーマ：がんサバイバーへの緩和ケア②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全人的苦痛（トータルペイン）の理解 ・疼痛のマネジメントと薬剤の活用 ・補完・代替療法と看護 (原)
第12回	<p>テーマ：意思決定を支える援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん医療における倫理的課題 (原)
第13回	<p>テーマ：終末期にある人とその家族の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期にある人の死にゆくことに対する態度 ・終末期にある人の家族 (原)

第14回	<p>テーマ：終末期にある人とその家族への看護援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予期的悲嘆への援助とスピリチュアルケア ・遺族へのかかわり(グリーフケア) ・死亡後のケア <p>(原)</p>
	<p>第15回 テーマ：小児の緩和ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児の緩和・終末期看護について <p>(樋口)</p>
テキスト	<p>小松浩子他：系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院 宮下光令(編)：ナーシング・グラフィカ成人看護学⑥ 緩和ケア、メディカ出版</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>参考図書／神田清子、二渡玉江(編)：看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術—がん・ターミナルケア、メヂカルフレンド社</p> <p>その他、図書館の<中原>指定図書コーナーに、がん看護、がん治療やレジメンに関する書籍を多数配架していますので、ぜひ活用してください。</p> <p>データベース／医学中央雑誌、最新看護索引 web、CiINAHLなどから関連事項を探してみましょう。</p> <p>雑誌／がん看護、ターミナルケア、死の臨床</p>
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「講義での学び」に対する全体へのコメントは、講義内でフィードバックします。 ・達成度評価については、成績発表後に評価得点分布を提示します。
学生へのメッセージ・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・2人に1人が一生のうちにがんと診断されるといわれる時代、看護職としてがん患者へ看護を提供する機会は少なくありません。また、近年のがん医療は目覚ましいスピードで発展しており、医療現場では常に最新の情報を得ながらより良い看護を探求し、学び続ける姿勢が必要になります。また、医療の場も病院から地域へ拡大し、患者のニーズもより多様になってきています。 この授業を通してがん患者やがん治療に関心を深め、講義内容が理解できるよう積極的に質問をしたり、日頃からニュースや新聞、文献、ドキュメンタリーなどにも目を向け情報を敏感にキャッチし、自らの感性を磨く姿勢を養って下さい。 ・この授業を通していのちとは何か、尊厳ある死とは何かなど人間の生と死について考え、その援助のあり方について学んでいきます。日頃から緩和・ターミナルケアに関する最新の情報にも関心をもち、自分の人生観、死生観、看護観を確かめながら授業に臨んで下さい。 ・講義内容の理解を深めるために、課題やレポート等を課すことがあります。課題・レポートに関する全体へのコメントは講義やClassroomにおいてフィードバックします。 ・複数の教員が担当しますが、定期試験は統合して行います。プリント・テキストのみならず、授業中の対話も注意深く理解するように心がけて下さい。 ・受講後に提出する「講義での学び」は、評価対象となります。 未提出や提出遅れ、内容が不適切なものは減点対象となりますので、講義をしっかり聞いて提出しましょう。 ・第9回のグループディスカッションでは積極的に意見交換をして学びを深めましょう。

